

## 研究ノート

# 企画展「会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－」実施報告

高橋 充\*・小林めぐみ\*・塚本麻衣子\*

## はじめに

令和2年夏に福島県立博物館が実施した企画展「会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－」（以下、サブタイトル省略）は、当初東京オリンピック・パラリンピック2020の開催に合わせて、会津の歴史・文化を県内外に広く紹介するために取り組む予定であった。ところが、同年春からの新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の急速な拡大の影響によって、当初の計画を大幅に変更せざるを得なくなった。前例のない状況の中で実施することになった企画展について、その変更・修正の経緯やコロナ禍の中での新たな試みについて報告する。

なお、1～3・5・6は高橋が、4は小林・塚本が執筆した。（高橋）

## 1. 企画展の概要

ここではまず、実際に行った企画展の概要を記す（おもに広報用の情報）。

### ○名称

福島県立博物館 令和2年度 第2回企画展「会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－」

### ○趣旨

会津の歴史といえば、まず戊辰戦争が想起されるが、戦争の舞台にもなった若松城や城下町の基礎は、江戸時代初期の蒲生氏郷の治世に形づくられ、保科正之を祖とする会津松平家の時代に藩政の整備や経済の発展が進んだ。この企画展では、ふくやま美術館の格別の御理解・御協力のもとに、特別展示として、氏郷が所持したと伝える国宝「短刀 銘国光（名物会津新藤五）」を、ゆかりの地で初公開させていただく。さらに当館の収蔵品をはじめ、会津に伝えられた藩士や城・武家屋敷に関する資料を展示公開し、会津の武家文化の伝統をたどる。

現在、新型コロナウイルスの感染症拡大の中で、これまでの当たり前の暮らしのありがたさが身に染みて感じられるようになっている。今回の展示の中

では、戦時ではない日常的な暮らしや文化的な営み、また有名な大名・藩主ばかりでなく多くの無名の武士たちにも目を向ける。このような状況だからこそ、あらためて共感していただけるところもあるのではないだろうか。

福島や会津に住む皆さまに、地元ゆかりの資料を、あらためて一点一点じっくりと観覧していただき、会津の歴史や文化の奥深さを感じていただける企画展を目指す。

### ○会期

令和2年8月1日（土）～9月22日（火祝）

開催日数53日 開館日数47日

前期：8月1日～30日 後期：9月1日～22日

### ○休館日

毎週月曜日（8月10日・9月21日は開館）

### ○開館時間

午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分）

※毎週土曜日（8月29日を除く）及び8月13日・14日は、企画展に限り午後7時まで延長。最終入館は午後6時まで。

### ○会場 福島県立博物館企画展示室

### ○主催 福島県立博物館 福島民報社

特別協力 ふくやま美術館

後援 会津若松市 会津若松市教育委員会

協力 一般財団法人会津若松観光ビューロー

会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

### ○観覧料

一般・大学生700円（560円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

常設展も観覧可

高校生以下 無料

### ○展示の構成とおもな展示資料

プロローグ 430年前の会津－道中絵図にみる秀吉の通った道－「道中案内」（当館蔵）

### 1. 特別展示「会津新藤五」と蒲生氏郷

「短刀 銘国光（名物会津新藤五）」（国宝 ふくやま美術館）

・氏郷の文武と顕彰

\*福島県立博物館

「紙本著色蒲生氏郷画像」(重文 西光寺・当館寄託)

「蒲生氏郷書状」「蒲生氏郷法度条目」「九戸出陣陣立書」「豊臣秀吉朱印状」(当館蔵)

「蒲生氏郷和歌短冊」「蒲生氏郷消息」(当館蔵)  
「青磁花瓶」(県重文 興徳寺・当館寄託)

・氏郷家臣の筆頭蒲生源左衛門尉郷成とその家系  
「緋糸威二枚胴具足」(当館蔵)

## 2. 収蔵品でたどる会津の文と武

・蒲生以前 - 蘆名氏と雪村・猪苗代兼載  
「三喜斎秘法伝授(蘆名盛氏伝書)」(県重文 築田家文書・当館寄託) 雪村筆「竹に鳩図」(当館蔵)

「八代集秀逸」(県重文 小平湯天満宮・当館寄託)

・保科正之の学問

「保科正之画像」(県重文 土津神社・当館寄託)  
「玉山講義附録」(当館蔵)

・会津松平家の文化

加藤遠澤筆「瀟湘八景図」(当館蔵)「能面平太」(土津神社・当館寄託)「会津藩家世実紀」(県重文 当館蔵)「夕顔蒔絵鼓」(当館蔵)

・家訓 - 会津藩の精神性 - 「家訓」(当館蔵)

・追鳥狩 - 武の家の軍事訓練

「追鳥狩図屏風」(個人蔵・当館寄託)

・藩校・日新館

「日新館図」「日新館教授之図」「日新館童子訓」(当館蔵)

・藩士たちの日常

## 3. 若松城と武家屋敷

・描かれた城と町 「若松城下絵図屏風」(当館蔵)

・若松城の瓦と石垣

「若松城跡出土金箔瓦」(会津若松市教育委員会)  
若松城跡石垣の石材など

・武家屋敷の暮らし

若松城郭内武家屋敷出土資料(会津若松市教育委員会)

※各章の展示担当

プロローグ：高橋充(歴史分野)

1章：高橋充・小林めぐみ(歴史・美術分野)

2章：川延安直・小林めぐみ(美術分野)

高橋充・阿部綾子(歴史分野)

3章：相田優(自然分野)・高橋充(歴史分野)

山本俊・田中敏(考古分野)

※展示資料の詳細は、末尾の参考資料1を参照

○関連イベント

・美術講座「刀匠が触っているのを見てみる刀剣講座」

日時：8月16日(日)13:30~14:30

講師：藤安将平氏(将平鍛刀場刀匠)

会場：講堂 要申込・定員40名

・野外講座「鶴ヶ城の石垣を見る、歩く」

日時：9月5日(土)8:30~10:00

講師：近藤真佐夫氏(会津若松市教育委員会)

相田優(当館学芸員)

場所：鶴ヶ城公園 ※福島県立博物館入口集合  
要申込・定員20名

・見どころ解説会

8月1日(土)・8日(土)・13日(木)・14日(金)・  
15日(土)・22日(土)

9月5日(土)・12日(土)・19日(土)

各日とも17:00~17:30(受付開始16:30)

講師：高橋充(当館学芸員)

場所：講堂 定員20名

※開催日は、企画展のみ17:00~19:00まで開館時間を延長。解説会終了後に自由観覧(解説会参加は無料。企画展は観覧料必要)。

参加希望者多数の場合は、18:00~18:30に追加で実施する場合もある。

○常設展示室の関連展示

・テーマ展「美しき刃たち - 会津編」

(7月18日~9月23日)

・ポイント展

「宇都宮・会津仕置430周年記念② 秀吉がやってきた!」(7月1日~8月21日)

「会津藩校日新館の教科書」(7月4日~9月27日)

「会津藩家老田中土佐の短刀」

(8月22日~9月27日)

「宇都宮・会津仕置430周年記念③ なるほど! 太閤検地」(8月22日~10月25日)

「斎藤一と会津」(9月12日~9月27日)

○連携展示・イベント

・若松城天守閣郷土博物館

特集展示「刀」(7月18日~9月8日)

・会津若松市ナイトタイムエコノミーイベント

七日町通り 8月8日・22日

(高橋)

## 2. 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

### (1) 変更の経緯

前章で示した概要は、コロナの拡大による変更や修正の結果できあがったものである。

令和2年2月末から3月にかけて、コロナが全国的に拡大した。感染拡大防止のため、当館においても、イベント・行事等の中止・延期や、展示室での解説や体験活動の停止などの措置を取り、来館者に対して手指の消毒等の協力を得ながら、2月11日に

開幕した特集展「震災遺産を考える」を、当初の予定通り4月12日まで実施した。

年度が変わり、4月になるとコロナの全国的な拡大の影響を受けて、緊急事態宣言が出され、福島県では施設の休館を決定、当館は4月21日から5月15日（当初は5月6日、期間延長）まで臨時休館することになった。令和2年度第1回企画展「ふくしまの旅」は4月29日に開幕の予定で、すでに展示資料を借用し、室内での展示も完了させたが、開幕は延期となった（5月16日再開館とともに開幕）。

このような状況の中で、今年度の第2回以後の企画展について見直しや再検討が求められるようになった。この時点では、コロナの影響が容易に終息するとは思われず、状況の推移を注視しながら、実施するとすれば感染拡大防止の対策を取ることが必要条件と考えられた。しかし、再び感染が拡大した場合には、第1回の場合のように臨時休館等に伴う開催延期や中止なども当然予想された。また仮に開催できたとしても、通常と同じように入場者を期待することが現実的に難しいことは、遅れて始まった第1回企画展の入場者の状況や、毎年春先に集中する学校団体の入館がほとんど無いこと等から容易に予測できた。当館の企画展の場合には、とくに入館料や図録売払い等の収入を見込んで予算を組んでいることから、本庁の所管課より第2回以後の企画展実施予定・方針や経費等を見直すように指示が出された。

第2回企画展についていえば、東京オリンピック・パラリンピック2020の延期は決定・発表されており、すでに当初の目標のひとつは失われていた。会津の武家文化・歴史を広く紹介するという趣旨は、「ふくしま発見」という当館の使命に沿って不変的にあるものの、このような条件の悪い時期に実施するのが果たしてよいのかどうか判断に迷うところであった。会津は観光地であることから、企画展の内容によっては、地元の方々以外の観光客を呼び込むことになり、感染拡大防止と移動制限のバランスも考慮する必要がある、中止や延期も選択肢となった。

しかし企画展の準備は、すでに一定程度進んでいたため、以上のような状況を重く受け止めながらも、中止を決めずに実施する方向で、内容は全面的に見直すことに決定した。担当者の率直な感覚としては、既存の計画を見直すというよりは、新しく別の企画展を一本組み立てるという気持ちで臨むことになった。時間が少ない中で何とか見直しを進めた結果、新たな企画展の計画がほぼ固まったのは、ちょうど臨時休館が終了し再開館となった5月中旬頃であった。

## （2）変更の内容

### ○展示趣旨

繰り返しになるが、企画展「会津のSAMURAI文化」の趣旨は、会津の武家文化・歴史について広く紹介することであった。この趣旨自体は、今さら変更するわけにはいかない。そのことを前提としながら、当初のように外国人や観光客を強く意識するのではなく、おもに県内、地元の方々に観覧していただくことをイメージして内容を組み立て直すことにした。

### ○展示資料・内容

展示資料・内容についての最も大きな変更点は、第1章（当初は「歴代城主と名品・逸品」）で想定していた部分で、会津の領主・歴代藩主ゆかりの品々を全国各地から集めて展示するところである。蘆名・伊達・蒲生・上杉・加藤・保科松平と交替した藩主たちの文化的な素養をあらわす絵画・工芸・古文書などを選び出し、国宝・重文を含めた優品を展示公開する内容で、企画展の目玉のひとつであった。しかし、コロナの状況下では、第一に資料の安全な輸送や搬出入・展示についてリスクが大きすぎた。また経費も膨大にかかるため、ここは大部分中止せざるを得なかった。すでに出品の承諾や内諾をいただいていた各所蔵先には、お詫びして取りやめとさせていただいた。たいへんな御迷惑をおかけしたことを、紙面を借りて、あらためてお詫びしたい。

その中で、開催準備の当初からお願いしていた国宝「短刀 銘国光（名物会津新藤五）」については、ふくやま美術館の格別の御配慮により、出品いただけることになった。資料の運搬・展示を最小限に限定・集中させ、この資料を展示の中核に据えることによって、第1章の内容をあらためて組み立て直した。この短刀の所持者であった蒲生氏郷については、地元の会津では、保科松平氏に次いで知名度も高く、若松城や城下町の創始者と位置づけられる重要な人物である。氏郷に関しては、当館に関連する収蔵資料もあり、奇しくも令和2年が会津の城主となつてから430年目に当たっていた。

保科松平氏時代の藩政を扱う第2章（当初は「平和な時代のサムライたち」）は、借用資料をなくして、当館の収蔵資料のみで組み立てることにした。すでに資料調査等をさせていただいたところもあったが、コロナ禍での借用は先方の御迷惑になるものと考え、今回は出品を見合わせるようになった。収蔵資料は、これまでも折りに触れて展示公開してきたものが多く含まれるが、これまで以上に内容を精査して、ある程度まとめて展示公開する機会とした。



第3章（当初は「若松城と城下町の暮らし」）については、大型絵図の複製展示や城郭の立地を示す地形模型の製作を計画していたが断念せざるを得なかった。収蔵資料の絵図類を選び直し、借用資料は公的機関である会津若松市教育委員会所蔵の発掘出土品等に限定した。第2章・第3章については、当初から進めてきた当館の歴史・美術・考古・自然等の諸分野の合同という形を継続することができた。

プロローグの部分は、当初は歴代藩主の紹介（パネル）等を想定していたが、第1回企画展と連動して計画したポイント展「宇都宮・会津仕置430周年記念① 道中絵図にみる秀吉の通った道」が、予定より遅れて始まったものの（4月29日～予定 5月16日～開始）、マスコミにも取り上げていただき好評で、終了後にも問い合わせや見逃したことを残念がる御意見をいただいていた。展示資料の「道中案内」は、臨時休館によって当初予定していた展示期間より短くなったことから、その分を延長させて、資料保護のために巻替えをしながら、第2回企画展のプロローグとして再び展示することにした。

#### ○タイトル・会期・図録など

以上のように展示内容を変更したため、企画展のタイトルは、「会津のSAMURAI文化」を元のまま残しながら、サブタイトルに「蒲生氏郷と藩士たちの文武」を付けることに変更した。

企画展の会期については、当初は7月18日～9月13日としていた。開始日については、コロナの影響をできるだけ回避し、また準備の遅れを取り戻せるように8月1日に延期した。結果論ではあるが、政府が示した緊急事態宣言が解除された後の段階的な移行期間が、ひとまず終了する期日とも一致することになった。展示品の公開日数に留意しつつも、できるだけ来館者が分散するよう会期は長めにとり、また実施されるかどうか不透明ではあったが地元の一大イベントである「会津まつり」の時期まで会期を延ばして、終了日を9月22日とした。

また企画展の開催と連動して常設展示室（歴史美術）で開催を予定していたテーマ展「美しき刃たち－会津編」も、会期を7月18日～9月23日に変更した（当初は6月28日～9月13日）。

展示図録については、計画変更が急であったため、どうしても準備が間に合わず作成することができなかった。ただし目玉である国宝の短刀の写真・解説を含むふくやま美術館発行の図録（『小松安弘氏寄贈刀剣図録』）を買い取り、当館で販売した。また展示資料のうち当館収蔵資料を個別に掲載した当館発行の既存の図録等をできるだけ紹介して販売することにした。

企画展のテーマ解説・キャプション表示等の多言語化も、中止することになった。

#### ○関連行事・連携事業

企画展に関連する行事について、当初は開幕式、記念講演会（会津新藤五に関する内容）、公演（コンサート）、イベント（市民参加）等を予定していた。これらについては、会場での感染症対策を万全にするためには参加者の人数を少数に限定しなければならないこと、講師・関係者の移動の安全等が確保できない可能性があることを考慮して中止せざるを得なかった。

関連行事として、予定通り実施できると判断したのは、若松城の石垣を観察しながら歩く野外講座と刀剣を鑑賞する美術講座、夜間開館延長に連動した見どころ解説会だけとなった。見どころ解説会は、展示室での学芸員の解説ができない状況の中で、講堂で企画展の見どころや主要な展示品についてスライド等を使用して解説した後、入場者が自由に展示室を観覧するというものである。今回は、毎週土曜日の夜間開館延長、会津若松市観光課の推進するナイトタイムエコノミーと連携した企画として実施することになった。見どころ解説会と夜間開館延長は、観光課との連携事業として当初から予定されていたものだが、できるだけ混雑を避けて分散し、入場者がゆったりと観覧できる環境をつくるというコロナ対策の観点からも有効と考えて、お盆期間中も対象に加えて実施することになった。

また、この他に市内の文化・観光施設と連携して武家文化体験プログラムを企画し、市内の各所で武道や芸能をテーマとした実演や体験型の講座・ワークショップ等を実施する計画であったが中止せざるを得なかった。その後の経緯等は、後に詳述する。

#### ○広報

広報については、計画変更以前に発行していた「年間催し物案内」には、内容の変更等を記載した紙を挟み込むことで対応した。すでに準備を進めていた一部の広報誌への広告掲載は、内容の変更が伝わるように配慮した。通常の企画展と同様にポスター・チラシ等は作成したが、経費節減の関係で部数等はかなり抑えた。費用のかかる広告やテレビスポット等も、コロナの状況が予測できないこともあり、計画段階で中止せざるを得なかった。

広告掲載を含めた広報協力については、当初から福島民報社にお願いしていた。企画展の内容を大幅に変更（縮小）せざるを得ないことを率直に伝えたところ、当館とともに主催者として、引き続き可能な範囲で広報協力をしていただけることになった。

#### ○予算規模等

以上のような内容の変更に伴い、事業としての収支の面でも変更があった。収入では、まず展示内容の変更（縮小）に伴い、観覧料を引き下げることにした（一般・大学生1200円→700円、団体1000円→560円）。また入場者・入館料収入の見込みを下方修正した。具体的には、土日・祝日は100人、平日は50人、平均70人を見込み、有料入場者3300人、無料を含めて5000人を目標とした。支出では、借用先の減数に伴う旅費・運搬費・報償費等と、関連行事や広報の縮小に伴う旅費・報償費・広報費等を減額し、あらたに必要な経費を積み直した。結果として、当初の予算規模の4分の1程度に大幅に縮小することになった。

### （3）コロナ対策－安心・安全のための工夫

緊急事態宣言が解除される頃には、公益財団法人日本博物館協会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」が公表され、再開館の時点（5月16日）で、来館者全般に対する基本的なコロナ対策は、可能な範囲で整えられた。

企画展については、第1回が無事終了したものの、第2回は、夏休みやお盆期間、秋の連休や「会津まつり」のような、例年であれば入場者が増えて混雑する時期を含むため、3密回避などの対策をより強化する必要が生じた。

#### ○企画展示室内の人数制限

会場となる企画展示室は約700㎡。空調によって温湿度管理し、出入口（開放）は2か所、ただし屋外との直接的な換気は容易にできない環境である。すでに第1回企画展を開始する時点で、展示室入口で、展示室へ入場した人数をカウント・表示し、およそ25人を目安に入場を制限し、室内で混雑する状況がおきない体制をとった。

第2回企画展の準備段階では、これ以外に、整理券配布方式（番号制・時間制など）や事前予約制の導入や併用など、いくつかの方法を想定して、それぞれのメリット・デメリットを比較した。結果として、係員（展示解説員）を入口付近に配置して入場者をコントロールする第1回と同じ方法が、もっとも柔軟で、効率よく入場していただける方法と判断して採用することになった。そして開幕後の混雑状況をみながら、待機者が多くなる場合には、方法の変更などで対応することにした。なお、入場制限となった場合に整列・待機してもらう十分なスペースを、エントランスホールに確保した。

#### ○展示室内のレイアウト

展示室内における入場者の導線については、できるだけわかりやすく単線にするように留意した（展

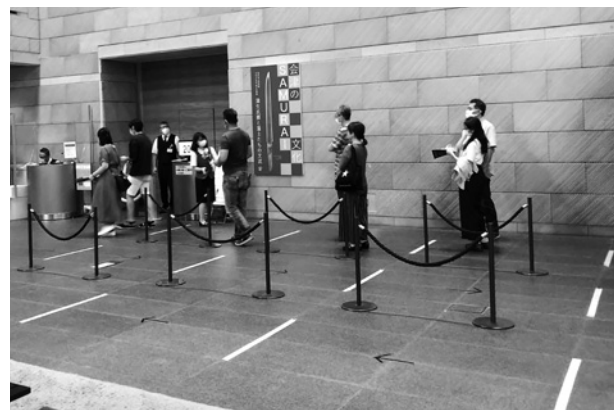
示室の略図は末尾の参考資料3参照）。観覧者によって、それぞれ観覧のスピードやポイントなどが異なる点を考慮すれば、導線を固定せずに比較的自由的なフリースペースを増やすことも考えたが、人の流れが交錯したり、前後に行き来するのを避けて、できるだけ一方通行で進めるように考えた。また、展示資料の間隔についても、あまり近すぎないように、通常の展示よりゆったりとさせることを心がけた。その結果、展示資料数は全体に少なめになった。

最も留意したのは、観覧者の集中が予想される国宝「短刀」の展示方法である。独立した5面行灯ケースを使用して、周囲を広くとって、いろいろな角度から観覧できるようにするとともに、混雑を想定して順番を待って整列するスペースを確保し、近くに警備員も配置した。

#### ○その他

前記したように、毎週土曜日とお盆期間中には、通常の開館時間を延長して、午後7時まで（最終入館は午後6時）とした。開館時間を延長することで、混雑する時間を避けて、ゆっくりと観覧する時間を提供することが目的のひとつであった。

開館延長の時間中は、学芸課・総務課の職員と解説員2名が対応し、ナイトタイムエコノミー対象日は会津若松市観光課職員1名が加わった。（高橋）



企画展示室入口付近の待機状況



国宝「短刀」付近の展示状況（内覧会時）



### 3. 実施状況・入場者数・広報など

#### (1) 実施状況

前章で述べたような経緯を経て、ようやく開幕に漕ぎつけた企画展の実施状況は、以下の通りである。

- 7月31日（金・開幕前日）  
 ・マスコミ向け内覧会 13:30～ 企画展示室  
 参加者：7人  
 ・友の会内覧会 14:00～  
 講堂で担当学芸員が解説した後、企画展示室を  
 自由観覧（事前申込制） 参加者：28人
- 8月1日（土） 開幕  
 特別アンケート実施（～8月4日）
- 12日（水） 入場者1590人記念セレモニー  
 13～15日 お盆期間 夜間開館延長  
 16日（日） 美術講座開催  
 19日（水） 会津若松市内で初の新型コロナウイルス感染者確認
- 22日（土） 入場者3000人記念セレモニー
- 9月5日（土） 野外講座開催
- 13日（日） 入場者5000人記念セレモニー  
 19日（土） 会津まつり開始  
 20日（日） 一日有料入場者数最高：282人  
 21日（月祝） 一日無料入場者数最高：434人  
 （敬老の日 無料開放日）  
 22日（火祝） 閉幕

開幕後、会期の半ば頃の8月19日に、当館の所在する会津若松市内で初のコロナ感染者が確認された。コロナ禍の状況は続いてきたが、幸いにも会期中に急速な感染拡大が起きることはなく、大きな障害には直面せず閉幕を迎えることができた。

#### (2) 入場者数の状況

以下では、結果について詳しく考察してゆくが、まず指標のひとつになる入場者数の状況を見てゆく。

会期中の総入場者数は6,780人で、変更後の目標5,000人を上回ることができた。1日の平均は144.3人。1日の入場者数が最も多かったのは9月21日（無料開放日）の434人、通常の開館日（有料）では9月20日の282人であった。最も少なかったのは8月27日の43人であった。

有料入場者数は4,072人で、こちらも目標の3,300人をクリアした。内訳は一般4,038人、団体34人。コロナの影響もあって、団体は少なく個人客の割合が多かった。また1日の平均は86.6人で、これも目標

としていた70人を上回った。

会期中の変動を少し詳しくみてゆくと、後述するアンケート実施方法との関係で、表1①～⑧のような区分を設定した。

表1 企画展の総入場者数の内訳（人）

	期 間	日数	
①	8月1(土)・2(日)・4(火)	3日	448
②	8月5(水)～10(月)	6日	929
③	8月11(火)～16(日)	6日	1168
④	8月18(火)～23(日)	6日	710
⑤	8月25(火)～30(日)	6日	476
⑥	9月1(火)～6(日)	6日	654
⑦	9月8(火)～13(日)	6日	718
⑧	9月15(火)～22(火)	8日	1677
	計	47日	6780

これを見ると、入場者のピークは大きく2度あって、③の夏休み・お盆の時期と⑧秋の連休・会津まつり・会期末の重なった時期であったことがわかる。1日の入場者数が200人を超えたのは、8月9日・10日・14～16日と、9月20～22日の8日であった。8月20日に夏休みが終わって学校が再開することになった⑤の時期とその前後は、全体的に低調であった。8月19日に市内で初めてコロナ感染者が確認され、その後しばらく外出等を控える傾向が強まったことも関係があるかもしれない。

今回は、会期中の混雑をできる限り予測して対策を立てるために、とくに開幕直後（①）の入館者状況を、より詳しく分析することにした。

開幕日の来場者数を100とした場合に、平成30年度夏の企画展「美しき刃たち」の場合には、お盆期間中に130～200前後、期間最後の閉幕日に264、令和元年度夏の企画展「興福寺と会津」の場合には、お盆期間中に120～200前後、期間最後の閉幕前日に最高220という数字がわかっていた。そこで、この割合を、今回の企画展にあてはめてみると、開幕日の入場者が162人だったので、お盆期間中には200～320人前後と試算できた。ただし、今回は閉幕日とは重なっていないので、それ程まで多くはならないと予測した。このくらい的人数であれば、多少の混雑は起きるとしても、前記した人数制限の方法で入場者を迎えることができるという見通しが得られた。実際にお盆期間中の最大人数は、最終日8月16日（日）の273人であった。

また1日のうちの入館状況を知るために、企画展示室入口の解説員が、一定時間の入場者数をカウント・記録し、それをもとに時間帯別の入場者数を把握することを試みた。解説員の交替時間に合わせた

ため、60分単位と45分単位が混在しているが、おおよその傾向はつかめると考える。開幕当初の8月1日（土）・2日（日）・4日（火）の結果を示すと、表2となる。

表2 時間帯別入館者数（人）

時間帯	分間	8月1日	2日	4日
9:30～10:30	60	28	25	13
10:30～11:30	60	15	30	20
11:30～12:15	45	8	11	11
12:15～13:00	45	18	26	9
13:00～13:45	45	20	28	11
13:45～14:45	60	28	32	14
14:45～15:45	60	17	16	8
15:45～16:30	60	16	15	17
16:30～18:00	90	12	—	—
計		162	183	103

開幕日である8月1日の9:30～10:30がやや多いことを除けば、3日間ともほぼ同様な傾向が見てとれる。午前と午後にそれぞれピークがあり、午前は10:30～11:30、午後は13:45～14:45が混雑する。重要なのは、午前も午後もピークを過ぎると減少することで、お昼前後と夕方には入場者が少なくなることがわかった。実際、8月2日には11:15頃に3人が5分程度待機する状況が発生したが、その後解消し、また13:25頃から断続的に2人程度の待ちが発生したが、その後は解消した。

3日間の結果から、一日の中で混雑のピークはできるものの、ある程度分散する状況が予測できた。実際に対応した解説員からの提案で、混雑した時間帯には、先に常設展の観覧をお勧めする等の対応を取ることになった。また実際には行わなかったが、さらに混雑が激しくなった場合には、お昼の時間帯や15:00以後が比較的空いているというアナウンスをSNS等で発信することも想定できるようになった。

なお、合計9回行った開館延長（夜間開館）は、8月22日が最大で16人であったが、それ以外は2人～12人程度で、全体的に低調であった。天候の悪い日（夕立）もあったが、全体的に広報等が不十分で周知されなかったのが原因と考えられる。

### （3）図録

ふくやま美術館『小松安弘氏寄贈刀剣図録』は、会期中に92冊を販売し、会期終了後間もなく予定していた95冊を完売した。

### （4）関連行事

関連行事の参加者数については、表3の通りである。

表3 関連行事参加者数（人）

8月1日	見どころ解説会（定員20人）	12
8月8日	見どころ解説会	5
8月13日	見どころ解説会	7
8月14日	見どころ解説会	10
8月15日	見どころ解説会	4
8月16日	美術講座（定員40人）	37
8月22日	見どころ解説会	16
9月5日	野外講座（定員20人）	19
	見どころ解説会	5
9月12日	見どころ解説会	10
9月19日	見どころ解説会	5
	計	129



美術講座の実施状況



野外講座の実施状況

美術講座「刀匠が触っているのを見てみる刀剣講座」、野外講座「鶴ヶ城の石垣を見る、歩く」は、どちらもコロナ対策として募集定員は少なめに設定

していたが、いずれもほぼ定員に達して、内容も充実したものとなった。

見どころ解説会については、夜間開館延長と連動して参加者は多くはなかった。やはり広報等が十分でなかったことが反省点としてあげられる。

当館主催の行事以外では、会期中には蒲生氏郷公顕彰会による講演会（8月1日）が行われ、市内興徳寺の墓前祭の後に、当館学芸員が市内の会場で講話を行った。また秋の一大イベントである「会津まつり」は、規模を縮小し、例年と異なる内容で開催されることになったが、その一環として蒲生氏郷公入府430年記念「氏郷公ゆかりの地による歴史講演及び座談会」（9月21日 会津まつり協会主催）が企画され、当館学芸員もパネラーの一人として参加した。

#### （5）広報

企画展のための広報物としては、ポスター1,500枚、リーフレット20,000枚を作成・配布し、県内中心に発送した。その他、館広報誌『季刊博物館だより』136号に企画展予告、新しくなった広報誌『なじよな』2号に特集が組まれた。

その他、観光関係の冊子や情報誌・県広報物などに記事や広告が掲載された。

テレビについては、通例の県公報スポット情報が流された。ラジオについては、FM喜多方「けんぱく徒然語り」で、展示を担当した学芸員が出演して企画展の内容を紹介した（8月2日・16日・30日、9月13・20日）。またラジオ福島番組（9月3日）の中で電話取材を受けて放送されることもあった。

新聞記事については、とくに共同主催となった福島民報社が、企画展の節目ごとに特集記事や取材記事を数回にわたって掲載し、広報の効果が大きかった。

SNS利用者に向けては、企画展に関する投稿記事を、公式Facebookに15件（7月4件、8月6件、9月5件）、公式Twitterに15件（7月4件、8月6件、9月5件）掲載した。SNSでは、当館の企画展と若松城天守閣郷土博物館での展示の情報を相互に発信する等、連携して発信力を強める工夫もした。

予算規模を縮小した段階で、広報費も大幅に減ったため、大がかりな広報はできなくなった。そのような中で、刻々と変化するコロナの状況を注視ながら、小まめに情報を発信してゆくことが重要になってきた。その際に、SNS発信は、たいへん効果的な広報の方法であったと思われる。（高橋）

## 4. 他団体との連携

### （1）「会津の文化 × 地域振興プロジェクト」協議会との連携の経緯

福島県立博物館は、平成30年4月に会津若松商工会議所、（一財）会津若松観光ビューロー、会津若松市と「会津の文化 × 地域振興プロジェクト」協議会（事務局：会津若松商工会議所、以下「協議会」）を立ち上げた。「福島県立博物館が行う展覧会等を観光資源として生かし、博物館と自治体、商工業団体、観光団体等との連携により地域振興、観光振興を図るとともに、文化芸術の本質的価値及び社会的・経済的価値を地域社会が文化芸術の継承、発展及び創造に活用・好循環させること」を目的とする組織である。

福島県立博物館は、その使命の一つ〈出会いふれあい博物館〉に基づく活動方針で「地域連携とネットワークの拠点」を掲げ、「会津という観光地に立地することを踏まえ、地元会津の市町村や文化・観光施設・団体等と連携、協働し、新しいタイプのニーズに対応できるよう努めます。」と謳っている（平成19年7月公表。平成25年4月、平成26年6月、平成28年3月、平成31年3月改正）。しかし、観光地・会津に所在する自覚を持ちつつも、文化資源をいかに観光資源としていくかは長く実現の方策を決めかねる課題だった。

平成30年2月、文化と観光の協働がもたらす可能性を認識していた赤坂憲雄福島県立博物館長（当時）と他地域との差別化において地域の歴史文化の有用性を認めている渋川恵男会津若松商工会議所会頭の会談により状況が動きだした。一気に組織がつくられ、平成30年7月に開催した福島県立博物館企画展「美しき刃たち～東京富士美術館コレクションと福島の名刀～」、テーマ展「華麗なる島－会津出身の文化人・西川満が愛した台湾、つないだ日本」が、協議会の目的に合致する福島県立博物館の展覧会として協働の初舞台となる。企画展「美しき刃たち」では（一財）会津若松観光ビューローが管理運営する若松城天守閣郷土博物館とのリレー解説会を行い、テーマ展「華麗なる島」では協議会を母体とする実行委員会が会津と台湾の歴史文化的な交流をテーマとするシンポジウムを主催し、台湾からの団体参加者も生んだ。続く令和元年度には、企画展「興福寺と会津－徳一がつないだ西と東」で会津若松市が事務局を務める極上の会津プロジェクトとの連携事業を行うなど、協議会は順調に事業実績を積み重ねた。



そして迎えた令和2年度の企画展「会津のSAMURAI文化」は、観光地・会津の主要なイメージをつくりあげている武家文化がテーマであり、協議会の連携実績を活かして、展覧会を本格的な地域振興、観光振興に繋げる試金石となることが期待された。若松城天守閣郷土博物館との展示の連携は元より、天守閣同様に（一財）会津若松観光ビューローが管理運営する本丸にある茶室・麟閣、市内に所在する会津松平氏庭園・御薬園、会津若松市が管理する本丸内の武徳殿、隣接する能楽堂などでの武家文化体験プログラムを企画した。麟閣での武家茶道体験、御薬園での香道と武家料理体験、武徳殿での弓道体験や居合の実演見学など、歴史的建造物での臨場感あふれる文化体験は、福島県立博物館の展示と連動することで来館者の周遊を促すはずだった。しかし本格的に事業内容を固める直前にコロナウイルスの感染拡大がはじまり、人と人の接触を前提とする体験プログラムはすべて中止の判断をくださざるを得なくなった。（小林）

## （2）会津のSAMURAI文化×KKCなんばん先生

企画展「会津のSAMURAI文化」に合わせ予定していた御薬園や茶室・麟閣など武家文化ゆかりの施設との連携を何らかの形で活かさないかと考え、感染症対応として臨時休館していた際に始めた当館の公式YouTubeチャンネルで会津の武家文化を紹介する企画を提案した。

今年度、福島県立博物館では、館に足を運べなくても博物館を楽しむことができる動画コンテンツの制作を始め、子どもも楽しめる番組として「けんぱくこどもチャンネル（KKC）」の枠組みで、博物館の常設展示を紹介する「ズッキー&マッキー」シリーズ、昔のおもちゃ遊びを紹介する「おしのび殿さんぽ」シリーズを作成し、公開してきた。今回は、「なんばん先生」シリーズと題し、蒲生氏郷の時代にポルトガル・スペインから日本にやってきた「なんばん先生」が、初めて接する会津若松の武家文化を見聞して歩くというコンセプトで動画を制作することとした。

7月10日、御薬園や麟閣を所管する会津若松観光ビューローを訪問し、動画制作についてご相談したところご快諾いただいた。協議の結果、御薬園の庭園管理長・小林賢さん、麟閣で茶会を開かれている茶道石州流宗家会津支部副支部長・張崎ひさよさん、鶴ヶ城内にある弓道場で練習されている会津若松弓道会のみなさん取材させていただくこととなった。それぞれの方に事前に何度かご連絡をとらせていただき、いよいよ8月2日・3日に撮影を行った。

8月2日、「なんばん先生」こと山口拓学芸員、撮影・編集の原恵理子学芸員、企画の塚本で御薬園を訪問。庭園管理長の小林さんに御薬園をご紹介いただいた。初の屋外撮影ということで慣れない部分もあり、暑さや蝉の声に苦しめられながらも何とか撮影を終えることができた。3日は麟閣と弓道場を訪れた。麟閣では張崎さんから武家茶道の石州流の特徴や、麟閣の魅力について教えていただいた。また弓道場ではみなさんが弓を射る緊迫感のなか、会津若松弓道会の辰野浩さんにお話をお聞きした。事前に何点か質問事項をお伝えしていたとは言え、ほぼその場で内容を決めてのぞむ撮影に快く対応してくださった御三方に感謝したい。

### ①なんばん先生〈御薬園編〉

撮影日：令和2年8月2日（日）

公開日：令和2年9月5日（土）

出演：小林賢さん（御薬園庭園管理長）、山口拓（福島県立博物館副主任学芸員）

撮影・編集：原恵理子（福島県立博物館副主任学芸員）

協力：一般財団法人会津若松観光ビューロー

御薬園庭園管理長の小林賢さんより、御薬園の歴史、薬草園で育てられている薬草の種類や特徴、庭園や建築のみどころなどをご紹介いただいた。藩主が愛で活用してきた庭園の歴史や、会津藩で育成が研究・奨励されたオタネニンジンの由来など、会津藩の歴史の一コマを親しみやすく伝える動画を制作することができた。



御薬園での収録風景

②なんばん先生《茶室麟閣編》

撮影日：令和2年8月3日（月）

公開日：令和2年8月22日（土）

出演：張崎ひさよさん（茶道石州流宗家会津支部副支部長）、山口拡（福島県立博物館副主任学芸員）  
撮影・編集：原恵理子（福島県立博物館副主任学芸員）

協力：一般財団法人会津若松観光ビューロー  
石州流会津支部副支部長の張崎ひさよさんより、麟閣の来歴、武家茶道である石州流の特徴についてご紹介いただいた。歴史ある麟閣で月釜（千少庵（千利休の息子）の月命日に行う茶会）を行うことの誇りについてお話しいただき、今に息づく武家文化と、それがアイデンティティとして継承されていることを伝える動画となった。



麟閣での収録風景



③なんばん先生《鶴ヶ城公園弓道場編》

撮影日：令和2年8月3日（月）

公開日：令和2年8月29日（土）

出演：会津若松弓道会のみなさん、山口拡（福島県立博物館副主任学芸員）  
撮影・編集：原恵理子（福島県立博物館副主任学芸員）

協力：一般財団法人会津若松観光ビューロー  
鶴ヶ城公園内、武徳殿に隣接する弓道場で、会津若松弓道会の練習風景を取材し、同会所属の辰野浩さんより弓道に向き合う姿勢についてお話しいただいた。凛とした弓道の雰囲気伝えるとともに、会津若松では全ての高校に弓道部があり弓道が盛んであることなど、今に受け継がれる会津の武家文化について紹介する動画を制作することができた。



弓道場での収録風景



収録中に起きた非常に珍しい継ぎ矢

本来であれば体験プログラムを通して会津の武家文化に触れていただく機会としたかった今回の連携だが、動画制作に形を変えながらも、資料を保存公開する博物館と武家文化にゆかりの深い場を結ぶという大きな目的の足掛かりとして一つの成果となったと言えるのではないだろうか。（塚本）



## 5. アンケートの結果と考察

### (1) アンケートの方法

最後に、アンケートの結果と考察を行う。当館の企画展アンケートは、通常、企画展示室出口付近に、アンケート用紙と記入場所を設置して、入場者に任意で回答してもらう方法である。しかし今回は、以下のような通常とは異なる方法を採用した。

第一に、会期中の中盤以後にあるお盆期間や会津まつり期間の対策を準備するため、開幕当初の土日・平日を含む3日間（8月1日・2日、4日 表1①の期間）に限って、企画展入口でアンケート用紙を入場者全員に配布して記入・提出をお願いした。アンケートの精度をあげて知りたかったのは、入場者がどこから来ているか（居住地別）と、どのくらいの時間で観覧するか（観覧時間）のデータであった。

第二に、本庁の所管課からの要請で、年間パスポート（以下、年パス）に関するアンケートを取る必要が生じたため、年パスを使用した入場者には、すべてアンケート用紙を配布することになった。回答者の負担にならないように、年パスに関する質問事項もアンケート用紙に組み込み、共通の記入用紙を作成し会期末まで継続した。

以上のような、やや変則的な実施方法をとったことをふまえて、まず回収状況等を見てゆく（以下、アンケート結果の詳細は末尾の参考資料2を参照）。

総回収数は707件で、回収率は10.6%になるが、期間ごとのちがいは大きい。表1の①期間の回収率は54.2%、それ以外の②～⑧の各期間の回収率は5～10%前後であった。参考までに過去の企画展の回収率は以下の通り。

令和元年度夏「興福寺と会津」：2.3%

令和元年度秋「あにまるず」：3.9%

令和2年度春「ふくしまの旅」：5.3%

開幕当初の3日間という限定はあるものの、入場者の約半数が回答している①期間の結果は、来場者の動向をかなり正確に反映していると考えられる。この意味で①期間のデータを、とくに重視したい。

また②～⑧期間においても、過去の企画展に比べて回収率が全体的に高いのは、年パス利用者に特別に配布したためと考えられる。全員に配布した①期間の回答者のうち年パス利用者の割合は13%、年パス利用者だけに配布した②～⑧期間の回答者のうち年パス利用者の割合は34%という数字が、そのことを示している。ただし、年パス利用者が多いことで、回答の内容の中には一定の傾向（たとえばリピーターとしての傾向）が見られることにも注意しなければ

ならないだろう。

### (2) 入場者の傾向

アンケートの結果から、今回の企画展の入場者の傾向について考察する。

居住地別でみると、①期間は会津若松市内21%と福島県内62%を合わせて83%を占めている。この傾向は②～⑧期間を合わせると更に顕著になって88%となる。地元の会津若松市を含めて福島県内の方々が多く来場した企画展となった。当初の計画を変更した企画展のねらい通りの結果であり、県内を中心にポスター・チラシ等を発送した広報の効果とも考えられる。

なお過去の企画展アンケート結果の県内入場者の割合は以下の通り。

令和元年度夏「興福寺と会津」：82%

令和元年度秋「あにまるず」：63%

令和2年度春「ふくしまの旅」：83%

県外については、宮城・栃木・新潟・茨城・山形等の隣県が多く、次いで関東圏からの来館もあったことがわかる。

年齢（世代）別については、①期間で20代以下は14%と少なく、30～50代が最も多く46%、60代以上が40%を占めた。②～⑧期間を合わせても、この傾向に大きなちがいはない。年齢層の高い来場者が多い企画展であったといえる。

参考までに、土曜日の8月1日は20代以下が16%、30～50代が47%、60代以上が37%なのに対して、平日（火曜日）は20代以下が10%、30～50代が23%、60代以上が67%となる。平日は土日よりも高年齢層の割合が高くなると推測される。

#### ○情報源・広報の効果

企画展のことを知った情報源の割合としては、①期間では「新聞・テレビ・ラジオ・雑誌」が30%と最も多く、次いで「ポスター・チラシ」が27%であった。②～⑧期間では「ポスター・チラシ」が31%を占め、次いで「新聞・テレビ・ラジオ・雑誌」が23%、「館公式ウェブサイト」が11%と多かった。

今回、ポスター・チラシの部数は少なかったが、やはり最も身近な広報物であり続けていることがわかる。「新聞・テレビ・ラジオ・雑誌」については、どのメディアであるか判然としないところもあるが、多くの記事が掲載された新聞の効果が大きかったと思われる。「館公式ウェブサイト」については、前章で詳述した「なんばん先生」シリーズをはじめ、今回刀剣の展示指導をいただいたふくやま美術館長原田一敏氏による特別解説「蒲生氏郷と会津新藤五」や、美術講座「聞いて見てみる刀剣講座」等の



動画配信（YouTube）が充実したことと関連があるのかもしれない。

### （3）企画展に対する入場者の反応

アンケート回答者が、今回の企画展をどのように観覧し、受け止めたのかを見てゆこう。

「今回の企画展の料金は？」という問いに対しては、①期間では「適当」65%、「高い」6%、「安い」5%であった。②～⑧期間は年パス利用者が多いので、事情はやや複雑だが「適当」41%、「高い」5%、「安い」7%であった。①期間を重視して見ると、おおむね料金は適当という反応であった。内容の変更（縮小）に合わせて企画展料金を下方修正したのは適切な対応であったと思われる。

「今回の企画展はどうでしたか」という問いに対しては、①期間で「面白かった」43%、「やや面白かった」32%で合わせて75%になった。②～⑧期間では「面白かった」58%、「やや面白かった」26%で合わせて84%とさらに高くなった。「面白さ」を企画展に対する満足感の尺度のひとつと考えてよければ、おおむね満足だったということであろう。

以上のように、企画展全体については、おおむね好評価であったという点をふまえた上で、他の項目も合わせながら、さらに詳しく見てゆきたい。

観覧時間については、60分程度が最も多く、次いで30分～40分が多いという傾向は、①期間でも、②～⑧期間でも大きく変わらなかった。また、70分以上も10%を超えており、熱心に観覧していただけた方が多かったといえる。

一方で29分以下も①期間で19%、②～⑧期間でも13%になっている。アンケート項目8-2の意見等を見ると、展示物が少ない、とくに刀が少ない、もっと刀を展示してほしい、という声が多かった。これらの意見も合わせて考えると、刀剣を目当てに来館した方は、国宝の短刀以外は比較的短い観覧時間で済ませたのかもしれない。

「印象に残った展示品」に対する回答を見ると、国宝「短刀」という回答が圧倒的に多かったことがわかる。今回の企画展の中では、刀剣類は1点だけなので「刀」や「刃」という回答も、すべて含めているが、それにしても他の資料を圧倒している。今回の展示の目玉としてふさわしい結果であるが、あらためて近年の刀剣人気の高さには驚かされる。

前記したように、国宝の短刀に関する感想（すばらしい、ここで見られてよかった等）が多く寄せられた反面、「刀が少ない」「もっと刀を展示してほしい」等の意見も多かった。このような状況は、ある程度予想していたので、同時期のテーマ展「美しき

刃たち－会津編－」（常設展示室「歴史美術」）や若松城天守閣郷土博物館で開催されている刀剣展に関する表示を出口付近に出して来場を促すようにした。

「印象に残った展示品」としては、国宝「短刀」以外にも、いくつか特筆されるものがある。第1章では、「蒲生氏郷」に関するものとして括られる資料がある。第2章では、保科正之関係と会津松平容保所用の煙草盆や鼓などの工芸品があげられた。また、会津藩家訓、日新館図、追鳥狩図屏風なども多く、とくに後期に展示された追鳥狩図屏風が多かった。第3章では、若松城下絵図屏風等の絵図類と武家屋敷出土の焼き物その他の出土品をあげるものが多かった。

これらは、それぞれ会津藩の武家文化を示す資料として担当者が選び出して展示したものである。入場者の嗜好は、それぞれ異なるので、印象深い資料としてあげられたものは、ある程度バラツキがあるのは当然であろう。今回詳しくデータまで示すことはできなかったが、年齢層（世代）で見ると、武家屋敷の出土品は子供たちにも人気があり、家訓や日新館・追鳥狩図屏風等は、大人たちが好む資料という傾向も見られるようである。

会津の歴史や、蒲生氏郷・武士の日常・日新館等のことがよくわかったと感じた方が多い一方で、時代の流れなどがわかりにくい、それぞれのことをもっと詳しく説明してほしいという意見も多かった。

### （4）改善点

アンケートでいただいた意見の中で、改善できるところは、会期中に行ったので、列記する。

- ・今回、展示室内の撮影を認めたところ、カメラの音がうるさいとの意見があったため、注意表示を行った。

- ・座って休む場所を増やしてほしいという要望に対して、ソファを何ヶ所か増設したが、今回はコロナ対策のため、歩くスペースが狭くなること、展示室内での滞留時間が長くなること等の理由で、最小限にせざるを得なかった。

- ・古文書の解読がほしいという意見が多かったため、展示文書の解読の配布物を作成した。ただし読み下しや現代語訳までは作成できなかった。

### （5）コロナ対策

コロナ対策として行った展示室の人数制限については、25人は少なすぎるのではないかという意見が1件だけあった。実感としては、混雑して整列が長くなった日でも、それ程多くの苦情が出るということとはなかったように思う。ただし、列の入口・並び

方がわかりにくいや、どのくらい待てばよいのかわからない、などの意見があった。整列の表示なども、できる限り修正してわかりやすくしたが、待ち時間については、室内の観覧者の状況によって長短が変わるので、表示することまではできなかった。

展示室のレイアウトや順路については、ゆっくりと観覧できた、広々としていたという意見や、順路がわかりやすかったという好評価の意見があった反面、順路が単調とか、わかりにくかったという意見もあった。最終日の入場者から、密が心配でゆっくり観覧できなかったという声が1件だけあった。実際に展示室を見ていると、展示の後半部分はケースの数がやや多めであったため、ゆっくりと観覧する方が続く観覧者間の距離が近づいてしまう傾向がなかったとはいえない。(高橋)

## 6. おわりに

企画展の準備は、通常は数年前から始まる。「会津のSAMURAI文化」についても、前年度の予算獲得の時期から具体的な準備は始まっており、そこに降って湧いてきた新型コロナの感染拡大は、準備を進めてきた企画展に対して、当初の計画のまま開催するか、中止とするか、その中間の形にするかという選択を迫るものであった。今回の場合は、これまで記してきたように、中間の道を選ぶことになったわけだが、あらためて考えてみると、それが可能だったのは、開館以来収集されてきた収蔵資料があり、それらを組み合わせる展示を組み立て直すことができたからである。これまでに開催してきた会津や武家文化に関連する企画展を参考にできたことも大きかった。それらの蓄積と経験に支えられていたので、何とか軌道修正をすることができたと思っている。

一方で、収蔵資料を組み合わせる急遽展示することになった際に、わかりやすい解説（とくに古文書等）を作成したり、簡単なものでも図録のような成果物を刊行することができなかったのは、いまだ未熟な部分で、アンケートでは、これらの点が改善されるように望む意見が多かった。今後の課題とした。

コロナ禍の中で企画展を準備することになって、新たに気づかされたことも多かった。これまでの経験から、通常通り室内・ケース内に展示する資料（展示物）に注意を払うのは当然だが、今回は観覧者の動きや視線、室内の人数・混雑の具合などまで、目を向ける重要性を実感した。観覧しやすい環境を整えることまで、なかなか意識しない、できないことが多いが、本当はとても大切なことであり、これ

からも気をつけていかなければならないと感じた。

来館しない、できない方々に対しても、何かできることはないかという視点も大切で、今回のような動画配信の充実や、市内で行われるイベントとのゆるやかな連携などは、広く企画展の成果の一部として、今後も位置づけられるべきものであろう。

アンケートの中でいただいた「今回予定していたものをいつかみたい」という趣旨の意見や、同じ意味で今回のもの足りなさに対する厳しい指摘は、今後の励みになる。当初計画していた会津の歴代藩主ゆかりの名品・逸品を揃えること、若松城と城下町の大型絵地図の複製展示や城の立地を立体的に示す模型の製作、外国人に喜ばれるような多言語による解説の仕組みなどは、これからも機会を見つけて取り組んでゆきたい課題となった。

なお、今回の企画展の成果のひとつとして、会津の武家文化というテーマに当館の複数の分野が合同で取り組んだ内容については、本号の研究ノート「企画展『会津のSAMURAI文化』の成果」に詳しいのでご覧いただきたい。(高橋)

## 参考資料1 令和2年度 夏の企画展「会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－」資料リスト

## (1) 歴史・美術資料

	No.	指定	資料名	時代	所蔵先	写真掲載図録	期間	
プロ ローグ	1		道中案内	江戸	当館		場面替	
	1	1	国宝	短刀 銘 国光(名物会津新藤五)	13世紀 鎌倉	ふくやま美術館 (小松安弘コレクション)	ふくやま美術館編集・発行 『小松安弘氏寄贈刀剣図録』	
		2	重文	蒲生氏郷画像	1621(元和7)	西光寺 当館寄託	『千少庵と蒲生氏郷』『会津の寺宝』	前期
		3		蒲生氏郷書状 蒲源左宛	1590(天正18)	当館	『千少庵と蒲生氏郷』	
		4		蒲生氏郷書状 御つほね宛	16世紀 桃山	当館	『千少庵と蒲生氏郷』	
		5		蒲生氏郷和歌短冊	16世紀 桃山	当館		
		6		蒲生氏郷公書状写 伊藤半五郎宛	17世紀 江戸	個人 当館寄託		
		7		九戸出陣陣立書	1591(天正19)	当館	『千少庵と蒲生氏郷』『福島県立博物館資料百選』	
		8		蒲生氏郷法度条目 蒲生源左衛門尉宛	1591(天正19)	当館	『千少庵と蒲生氏郷』	
		9		豊臣秀吉朱印状 蒲生源左衛門尉宛	1595(文禄4)	当館	『千少庵と蒲生氏郷』『福島県立博物館資料百選』	
		10	県重文	青磁牡丹唐草文大瓶	14世紀 鎌倉	興徳寺 当館寄託	『会津の寺宝』	
		11		蒲生家系図	江戸	当館		
		12		火事装束	江戸	当館	高橋充「蒲生家伝来資料について」『福島県立博物館紀要』11	
		13		陣羽織	江戸	当館		
		14		采配	江戸	当館		
15		緋糸威二枚胴具足	17世紀 江戸	当館				
2	1	県重文	蘆名盛氏伝書	1557(弘治3)	個人 当館寄託			
	2		山水図 雪村周継筆	16世紀後半 室町	当館			
	3		竹に鳩図 雪村周継筆	16世紀後半 室町	当館			
	4	県重文	猪苗代兼載書八代集秀逸	1507(永正4)	小平瀧天満宮 当館寄託	『会津の寺宝』	場面替	
	5		沙弥某寄進状	1411(応永18)	融通寺 当館寄託	『会津の寺宝』		
	6		蘆名氏家来筋宿老中老近習外様衆記写	1589(天正17) 1824(文政7)写	当館			
	7	県重文	保科正之の画像(東帯) 狩野探幽筆	17世紀後半 江戸中期	土津神社 当館寄託	『保科正之の時代』		
	8		保科正之和歌「千早振」	1672(寛文12)	小平瀧天満宮 当館寄託	『保科正之の時代』		
	9		友松氏興和歌	17世紀 江戸	当館			
	10		保科正之の書状 片桐石州宛	17世紀 江戸	当館	『保科正之の時代』		
	11		玉山講義附録 二程治教録 伊洛三子伝心録	1842(天保13)	土津神社 当館寄託	『保科正之の時代』		
	12		能面 平太	17世紀 江戸	土津神社 当館寄託			
	13	県重文	家世実紀	1815(文化12)	当館	『保科正之の時代』『福島県立博物館資料百選』		
	14		紫檀能尽蒔絵煙草盆 松平容保所用	19世紀 江戸	当館	『福島県立博物館資料百選』		
	15		桐蒔絵鼓・夕顔蒔絵鼓 松平容保所用	19世紀 江戸	当館			
	16		鶴亀草花螺鈿鼓箱	19世紀 江戸	当館			
	17		瀟湘八景図 加藤遠澤筆	1722(享保7)	当館	『遠澤と探幽』 『福島県立博物館資料百選』		



企画展「会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－」実施報告

No.	指定	資料名	時代	所蔵先	写真掲載図録	期間
18		諸葛孔明・雲龍図 加藤遠澤筆	18世紀前半 江戸中期	当館		
19		御家訓 武井柯亭筆	19世紀	土津神社 当館寄託	『保科正之の時代』	
20		家訓 松平容保・山川浩筆	19世紀	当館		
21		土津様御家訓・鳳翔院様御遺状・徳翁様御詠歌 西郷近張	1736(元文元)	当館	『保科正之の時代』	
22		松平容保書状 会津藩家老宛	1864(文久4)	当館	『保科正之の時代』『福島県立博物館資料百選』	
23		山川健次郎書「有文事者必有武備」	近代	当館		
24		追鳥狩図屏風 大須賀清光筆	19世紀 江戸	当館		前期
25		御鳥狩行列附	19世紀 江戸	当館		
26		会津藩陣立表	1849(嘉永2)	当館		
27		日新館教授之図	1812(文化9)	当館	『福島県立博物館資料百選』	
28		日新館童子訓	1804(文化元)	当館		
29		日新館童子訓版木火鉢	1893(明治26)	個人 当館寄託		
30		口上之覚（日新館書籍開版につき庄田半蔵より丸山鎮之丞宛）	1863(文久3)	個人 当館寄託		
31		日新館図	19世紀 江戸	当館		
32		日新館慶応年間現図(渋谷源蔵筆)	19世紀	当館		
33		日新館誌		当館		
34		日新館誌		個人 当館寄託		
35		会津藩校誌 上 文学部 渋谷源蔵筆	1893(明治26)	当館		
36		会津藩校誌 下 武学部 渋谷源蔵筆	1895(明治28)	当館		
37		会津藩校誌 下 武学部・附録 渋谷源蔵筆	1896(明治29)	当館		
38		夢の栞 渋谷源蔵筆	20世紀 明治	当館		
39		旧若松城市図 新田慎興	1899(明治32)	当館		
40		若松府内屋並帳	19世紀	当館		
41		郭外屋鋪帳	19世紀 江戸	当館		
42		会津藩近習外様独礼以上人別帳	1892(明治25)写	当館		
43		会津藩臣班席表	1861(文久元)写	当館		
44		沢田名垂和歌	19世紀 江戸	当館		
45		春景山水図 浦上秋琴筆	1841(天保12)	当館		
46		龍笛譜 箏譜 横笛仮名譜 龍笛仮名譜	江戸後期	当館		
47		野矢常方和歌	19世紀 江戸	個人 当館寄託		
3	1	若松城下絵図屏風 大須賀清光筆	19世紀 江戸	当館	『福島県立博物館資料百選』	
	2	岩代国絵図	江戸	当館		

後期展示

1		蒲生氏郷画像 模写	1621(元和7) 1953(昭和28)	当館		後期
		蒲生氏郷像 「集古十種」所載	1597(慶長2) 1800(寛政12)	当館		後期
2		追鳥狩図屏風	19世紀 江戸	個人 当館寄託		後期

## (2) 自然・考古資料

No.	遺物名・種類	産地	遺跡名	所蔵先
1	若松城石垣石材			
2	斜方輝石単斜輝石角閃石 デイスaito溶結凝灰岩	背炙山層(七折坂層)会津 若松市東山町慶山		当館
3	斜方輝石単斜輝石角閃石 デイスaito溶結凝灰岩	背炙山層(七折坂層)会津 若松市東山町慶山		
1	宇瓦(黒)		若松城跡(帯郭瓦捨場)	会津若松市教育委員会
2	宇瓦(黒)		若松城跡(帯郭)	
3	鏡瓦(黒)		若松城跡(帯郭)	
4	鏡瓦(黒)		若松城跡(帯郭)	
5	宇瓦(赤)		若松城跡(北出丸門跡)	
6	鏡瓦(赤)		若松城跡(西出丸水路跡)	
7	鏡瓦(赤)		若松城跡(西出丸遺構外)	
8	鏡瓦(赤)		若松城跡(西出丸遺構外)	
9	軒棧瓦(赤)		若松城跡(西出丸遺構外)	
10	金箔瓦		若松城跡(天守北走長屋跡)	
11	金箔瓦		若松城跡(帯郭石列)	
12	金箔瓦		若松城跡(帯郭)	
13	金箔瓦		若松城跡(帯郭)	
14	金箔瓦		若松城跡(帯郭)	
15	金箔瓦		若松城跡(帯郭)	
16	金箔瓦		若松城跡(帯郭)	
17	金箔瓦		若松城跡(帯郭)	
18	酒海壺	中国	御用屋敷遺跡	
19	梅瓶	中国景德镇	本一ノ丁跡 I	
20	皿	中国漳州窯	原田五郎邸跡	
21	碗	中国竜泉窯	本一ノ丁跡 I	
22	蓋	中国竜泉窯	本一ノ丁跡 I	
23	碗	肥前焼	築瀬元次郎邸跡	
24	皿	肥前焼	日向新六邸跡	
25	皿	肥前焼	築瀬三左衛門邸跡	
26	皿	肥前焼	一瀬要人邸跡	
27	向付	唐津焼	築瀬三左衛門邸跡	
28	碗	波佐見焼	井上丘隅邸跡	
29	碗	波佐見焼	井上丘隅邸跡	
30	鉢	源内焼	築瀬三左衛門邸跡	
31	碗	現川焼	一瀬要人邸跡	
32	碗	京焼	井上丘隅邸跡	
33	甕	信楽焼	望月新兵衛・千葉権助邸跡	
34	甕	信楽焼	望月新兵衛・千葉権助邸跡	
35	天目茶碗	瀬戸・美濃焼	城東町遺跡	
36	碗	瀬戸・美濃焼	樋口又左エ門邸跡	
37	茶碗	瀬戸・美濃焼	井上丘隅邸跡	
38	碗	瀬戸・美濃焼	井上丘隅邸跡	
39	碗	美濃焼(志野)	川原町口遺跡	
40	壺	美濃焼(志野)	六日町口東側地点	

企画展「会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－」実施報告

No.	遺物名・種類	産地	遺跡名	所蔵先
41	皿	美濃焼(志野)	長谷川五郎左衛門邸跡	会津若松市教育委員会
42	皿	御深井焼	城東町遺跡	
43	皿	御深井焼	城東町遺跡	
44	皿	御深井焼	築瀬元次郎邸跡	
45	碗	美濃焼(織部)	日向新六邸跡	
46	碗	相馬焼	日向新六邸跡	
47	碗	相馬焼	日向新六邸跡	
48	小型壺	本郷焼	井上丘隅邸跡	
49	碗	本郷焼碎石手	御用屋敷遺跡	
50	皿	本郷焼碎石手	松本市之丞邸跡	
51	皿	本郷焼碎石手	井上丘隅邸跡	
52	組茶碗	本郷焼	日向新六邸跡	
53	碗	本郷焼	日向新六邸跡	
54	皿	蚕養焼	望月新兵衛・千葉権助邸跡	
55	湯呑み茶碗	蚕養焼	川原町口遺跡	
56	湯呑み茶碗	蚕養焼	川原町口遺跡	
57	碗	蚕養焼	築瀬三左衛門邸跡	
58	蓋	杉窯	岩田市右衛門邸跡	
59	南蛮人燭台	美濃焼(織部)	一瀬要人邸跡	
60	ひょうそく		城東町遺跡	
61	燭台		築瀬三左衛門邸跡	
62	植木鉢		井上丘隅邸跡	
63	植木鉢		一瀬要人邸跡	
64	水滴	美濃焼(織部)	一瀬要人邸跡	
65	紅皿		六日町口東側地点	
66	鬘盥		一瀬要人邸跡	
67	餌入れ	本郷焼	一瀬要人邸跡	
68	硯	石製品	井上丘隅邸跡	
69	硯	石製品	川原町口遺跡	
70	矢立	真鍮製	築瀬三左衛門邸跡	
71	塩焼壺		岩田市右衛門邸跡	
72	煙管	真鍮製・金メッキ	長谷川五郎左衛門邸跡	
73	煙管	銅製	長谷川五郎左衛門邸跡	
74	煙管	肥前焼	一瀬要人邸跡	
75	碗		御用人所・割場跡	
76	サイコロ	本郷焼	井上丘隅邸跡	
77	徳利	本郷焼	川原町口遺跡	
78	片口鉢	本郷焼	若松城跡(干飯槽跡)	
79	徳利		望月新兵衛・千葉権助邸跡	
80	盃(武士後姿)	漆器	六日町口東側地点	
81	椀	漆器	城東町遺跡	
82	椀	漆器	城東町遺跡	
83	兜前立	漆製品	高橋外記邸跡	



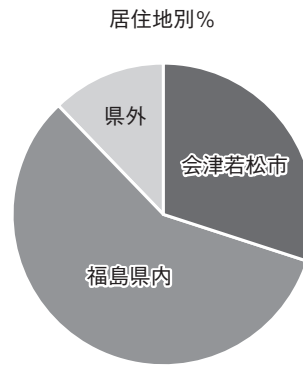
参考資料2 令和2年度 夏の企画展「会津のSAMURAI文化」アンケート結果

実施方法・概要

	期間		対象	回収数	入場者	回収率	年パス以外	年パス
①	8月1・2・4日	3日間	全員配布	243	448	54.2	202	41
②	8月5～10日	6日間	・年パス利用者へ全員配布 ・展示室出口で任意（通常の方法）	90	929	9.7	38	52
③	8月11～16日	6日間		90	1168	8.6	58	32
④	8月18～23日	6日間		52	710	7.3	18	34
⑤	8月25～30日	6日間		49	476	10.3	19	30
⑥	9月1～6日	6日間		51	654	7.8	25	26
⑦	9月8～13日	6日間		48	718	6.7	16	32
⑧	9月15～22日	8日間		84	1677	5	52	32
合計				707	6780	10.6	428	279

1 どこから来られましたか？ 居住地別%

	会津若松市内	福島県内	県外
①	21	62	17
②	31	63	6
③	22	57	11
④	37	56	7
⑤	43	53	4
⑥	39	49	12
⑦	38	50	12
⑧	38	50	12
計	30	58	12

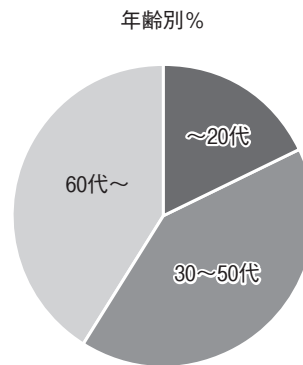


C県外の内訳（件数）

宮城24 栃木11 新潟・東京7 茨城・山形6 神奈川4 埼玉・千葉3 岩手2  
長野・静岡・京都・広島1

2 年齢は？ 年齢別%

	～20代	30～50代	60代～
①	14	46	40
②	17	34	49
③	37	42	21
④	14	48	38
⑤	13	29	58
⑥	20	27	53
⑦	13	36	51
⑧	18	45	37
計	18	41	41



3 今回の企画展を何で知りましたか？ 情報源%

	ポスター・チラシ	館広報誌	館ウェブサイト	館SNS	インターネット	新聞・テレビ等	市町村広報	知人	学校	その他	来館して
①	27	4	8	3	5	30	2	5	1	3	12
②～⑧	31	5	11	3	6	23	5	4	2	4	6

4 来館された回数を教えてください 来館頻度%

	はじめて	2回目	3回以上
①	25	18	57
②～⑧	18	9	73

企画展「会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－」実施報告

5 今回の企画展の料金は？ 価格感%

	高い	適当	安い	無料だった	年パス利用した
①	6	65	5	11	13
②～⑧	5	41	7	13	34

6 今回の企画展はどうでしたか？ 満足度%

	面白かった	やや面白かった	ふつう	あまり面白くなかった	つまらなかった
①	43	32	21	3	1
②～⑧	58	26	12	3	1

7 今回の企画展の観覧時間は？ 観覧時間帯%

	～19分	20分～	30分～	40分～	50分～	60分～	70分～	80分～	90分～	100分～
①	10	9	19	14	9	27	1	1	6	4
②～⑧	6	7	22	16	6	30	2	2	7	2

8-1 今回の企画展で印象に残った展示品 件数

			～20代	30～50代	60代～
プロローグ	道中案内	10	0	6	4
1章	短刀 銘国光（名物会津新藤五）	144	35	62	47
	蒲生氏郷 画像・書状・陣立	22	3	9	9
	具足・陣羽織	5	2	3	0
2章	蘆名盛氏 猪苗代兼載 雪村	5	0	3	2
	保科正之 画像・書・能面	13	2	7	3
	松平容保 煙草盆・鼓	20	5	12	3
	家訓15か条・山川健次郎書	16	0	6	10
	日新館図	18	7	9	2
	追鳥狩図屏風	14	1	4	9
	浦上秋琴絵画・碓の和歌	3	2	0	1
3章	若松城下絵図屏風 会津の地図	25	6	11	8
	若松城の石垣 城の立地 瓦	12	0	9	3
	武家屋敷の焼き物 サイコロ 漆器盆 徳利 甲前立 キセル	22	12	7	3

8-2 良かった点、改善してほしい点 ※同内容はまとめて件数の多かったものを中心に 良かった点○ 改善点×

◆テーマ・内容

○会津の歴史がわかりやすく学べた 蒲生氏郷のことがわかった 武士の日常、日新館のことがわかった	10
×会津の歴史の概略はわかるが、系統性がよくわからなかった 時代の流れがわかりにくい	4
○いろいろな側面から武士の文化について見学できてよかった	2
×刀が少ない もっと刀を展示してほしい 刀剣の説明を詳しく 刀の展示方法	15
×蒲生氏郷についてもっと詳しく	7
×展示物が少ない 今回予定していたものをいつかみたい 新しいものがなかった	6

◆展示方法

○刀剣の裏側、甲冑の裏側、煙草盆の裏側が見られてよかった	4
×陣羽織の内側がみたかった 焼き物を横からも見られるとよい	2
×ガラスの反射で見づらい 絵が遠くてみづらい	2
○説明がわかりやすかった	1
×もっと思い切って長めの解説のものがあってもよい 詳しい説明を 短くわかりやすく	6
×説明文を見やすい位置に 遠くからでもみえるように 説明文を大きく 文字を大きく ふりがなを多く	10
×古文書の読み下し文・現代語訳がほしい	16

◆展示室・環境

○写真撮影できたのがよかった	2
○ゆっくり観覧できた 広々としていた	3
○展示物が左右に置かれていなかったのがよかった 整理されていて見やすかった 順路がわかりやすかった	3
×順路が難しかった 順路が単調	3
×座る場所がほしい	5
×もっと明るくしてほしい	5

9 博物館への意見等 ※件数 多かったもの等

・図録がほしかった	7
・写真をとるカメラの音がうるさい	2
・おしゃべりがうるさい 注意してほしい	3
・入場制限25人は少ないのでは(9月20日)	1
・密が心配でゆっくり観覧できない(9月22日)	1

参考資料3 展示室略図

令和2年度夏の企画展「会津のSAMURAI文化―蒲生氏郷と藩士たちの文武―」

